

## 経験の積み重ねは自信に 自信は優しさと勇気の行動に

暑さの中に梅雨の気配が混じる季節となりましたが、子どもたちの挨拶は爽やかにバージョンアップしています。低学年は元気に、学年が上がるごとに所作も滑らかで自然に。生活委員会の高学年が自主的に挨拶に立ってくれるので、全校児童がその心意気に打たれているのかもしれませんが。最近では門から離れたところでも挨拶の声が聞こえることも多くなりました。外から来られた先生に「廊下で子どもたちが美しい姿勢で丁寧に挨拶してくれて感激しました」と言っていたいたり、別の先生には「明るく意欲的で、意見を発表できる子どもが多く、これからが楽しみです」とほめていただいたりしています。27日の、2年生以上が臨んだ「ぐんのび計算中間検定」も、どの学年も、みんな真剣に取り組んでいました。

学力向上とは、人としての成長が見られて初めて成果があったといえるのではないかと思います。「育ちがわかる」という表現が昔からありますが、日中の大半を過ごす学校で養うことができるのが品格だと、改めて感じています。人は、挨拶を含めて、毎日の望ましい習慣や振舞いを繰り返し身につけると、それが自信となって初めて、様々な場面で自らすすんで良い行動ができるようです。放課後学習も、疲れた子どもを追い詰める時間ではなく、ゆったり担任の先生と向き合えて（時には甘えて）わからないところが一つでもわかるようになって「勉強ってわかると楽しい」と思える、癒しと元気回復の時間であってほしい、と願っています。

他にも5月後半になって、全校の子どもたちが成長したなと思う場面が多々ありました。1年生はスタートカリキュラムを朝の時間に取り入れています。気持ちや行動の切り替えが早くなりました。毎朝思い切り好きな遊びをしても、タンブリンの音が鳴るとすぐに遊びをやめて、ダッシュで校舎玄関へ走って戻っています。そして緩やかな雰囲気です。手洗いやトイレなどを済ませて教室へ戻り、ブックママさんの読み聞かせなどをはさんで、授業が始まるのです。これからの連携や成長が楽しみです。

20日には、ボランティアの方ご紹介の会と集団下校訓練がありました。暑い中ご参加いただいた皆様ありがとうございます。1年生が地区別集合に戸惑っていても、6年生が一人ずつに優しく寄り添ってくれている姿がありました。高学年が、学校生活全般において下級生に優しく手本となって行動してくれていることが今一番嬉しく感じる事です。

ある時、授業に遅れて教室に戻ろうとする子どもがいて、声をかけ見守っていると、教室前で待っていた担任の先生は「おかえり。落ち着いた？」と笑顔で優しく声をかけて教室に迎え入れていました。その先生は保護者と話し合い、望ましい対応について勉強した上で対応をしてくれていました。実はそのやりとりの様子を学級の子もたちが見ていることが素晴らしいと思うのです。学校教育ならではの素敵な場面です。先生も、常にバージョンアップすべく情報交換や研修を重ねています。

さて、マスク着用については市教委からのプリントにありましたように、主に屋外にいる場合は外す方向ですが、「近くで話さないなら」という条件つきです。実際の登下校は密集して和やかに喋りながら歩いています。水泳指導も「安全第一」で実施しますが、常に2m間隔で声も出さないということは現実には困難と思われれます。市内でも子どもも大人も感染はなくなっています。水泳につきましても水中だけでなく熱中症や更衣室内での感染防止、プール周辺での対応が必要です。この2年半で子どもなりにコロナ対応の常識が身についています。培った力を今後も生かし、臨機応変に対応できるように対策を立ててまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



きれいに靴が揃っています！



静かに健診の順番を待っています



「廊下を走らない」目標達成が、なかなか難しいのです。そこで廊下の真ん中に、花筒に生けた花とガラス細工が登場！

創立150周年記念事業実行委員会が発足し、準備を進めています。子どもたちから募集した記念ロゴも最終審査段階となりました。学校HPに近日中にUPする予定です。